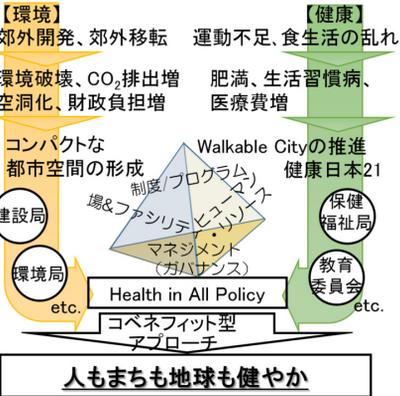


健康づくりのためのウォーキング 環境の評価ツールの開発

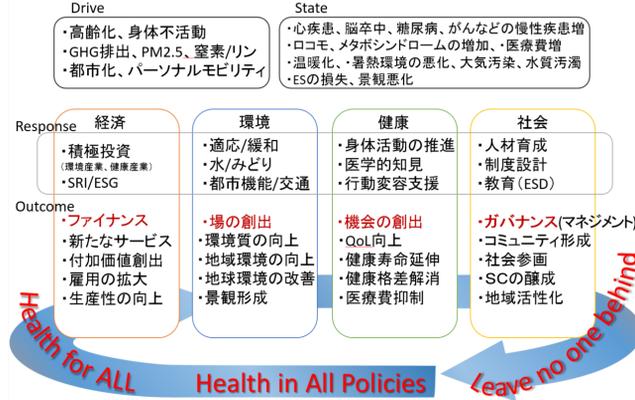
○尾崎平*・盛岡通**・木下朋大**・余イホウ*・安室喜弘*

* 関西大学環境都市工学部, ** 関西大学先端科学技術推進機構

研究の背景・目的



未来社会に向けた「環境」と「健康」の関係



本研究では、地方自治体が市民と協働して作成するウォーキングコースの作成支援を目的に、健康面と環境面からなるウォーキングコースの評価指標の開発と、GISを用いたウォーキングコース作成の支援システムを構築した。さらに、本システムを用いて、市民グループとのワークショップ(WS)、アンケートを通じて、新たなコース提案を行った。

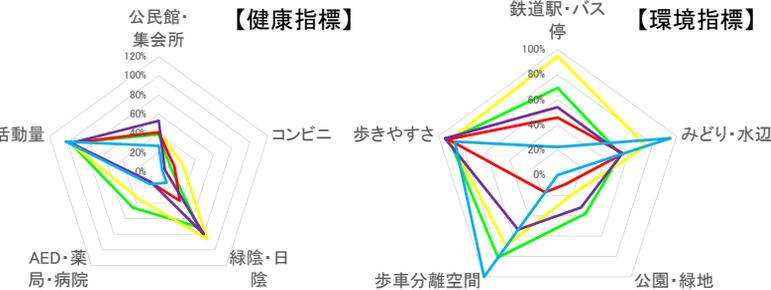
既存のウォーキングコース



WSを通じて提案したウォーキングコース



評価結果



結論

- ① 本手法はコースの強みと弱みを分析できる有効な手法であることが示唆された。
- ② 本システムを用いて、WSで得られた意見やアンケート結果も含めて地図上に表現した上で、ウォーキングコースをデザインした。
- ③ 本システムは、行政や住民がウォーキングコースをデザイン、見直しを行う場合の支援ツールとして寄与する。

ウォーキングコースの評価指標と設定意図

	指標	設定意図
近接性 (近づきやすさ)	(環境): 鉄道駅・バス停の圏域	公共交通優先まちづくりの側面から、鉄道駅やバス停からトレイルへの近づきやすさ。
	(健康): 公民館・集会所の圏域	健康体操・運動の場としてのコミュニティが集う場所からトレイルへの近づきやすさ。
快適性 (心地よさ)	(環境): みどり・水辺の延長	都市の自然的要素である街路樹や民地側を含むオープンスペース、せせらぎ、ため池等。
	(健康): 緑陰・日陰の延長	日射や照り返しが強い時期に、緑陰・日影が存在することで涼しく、快適で健やかな空間。
	(環境): 公園・緑地の圏域	人間の回遊行動(少し離れた公園に立ち寄り、また戻る等)を支える基盤的機能。
安全性 (安らかさ)	(健康): コンビニの圏域	こまめな休憩、水分補給、トイレのスポット。
	(環境): 歩道の延長	歩行者専用として安全な歩行空間が確保されている。
	(健康): 薬局・病院の圏域	急な身体不全や心肺停止等の事態に対応しうる備え(AED・薬局・病院)
	(環境): 傾斜量(勾配)	躓きによる転倒の危険性を考慮し、段差や勾配がない平坦性を是としたときの歩きやすさ。
	(健康): 活動量	健康増進に寄与する歩行方法として提案されるインターバル速歩との比較。